

原水協活動 FAX News

発行: 原水爆禁止日本協議会

電話 03 5842 6031 FAX 03 5842 6033

URL <http://www10.plala.or.jp/antiatom/> Eメール antiatom55@hotmail.com 2007年12月7日 No.19

ちひろ
カレンダー

「ちひろの遺言」と意義話し普及

八王子原水協会長の谷繁男さんは、ちひろカレンダーを個人で335本普及しています。

例年400本を普及している谷さんは11月4日、5000人が来場した「第28回八王子こどもまつり」で10数本普及、民間の会社へも積極的に訪問販売に出かけています。谷さんは「今年は憲法9条を守るカレンダーなど、いろんな種類のもの競合しているので大変」といいますが、「平和を守ってほしいというのはちひろさんの遺言だ」と意義を話し広げています。

埼玉では、医療生協が1000本を超えて普及しています。原水爆禁止世界大会への代表派遣のカンパになるということで、各院所と90支部で取り組んでいます。

福岡では、木村勇事務局長がカレンダーの「昨年比10%増」を機関会議で何度か訴えたところ、民医連で初めて100本普及してくれました。さらに、ひとつの加盟団体から50本の注文があり、昨年を100本上回り、一昨年の送数まで19本と迫っています。

前年比5%~10%を必ず増やそう

上野6・9行動 長崎の修学旅行生が署名、用紙を持ち帰る

日本原水協と東京原水協などは12月6日、観光客や修学旅行生でにぎわう上野公園で「原爆と人間」展パネルを並べ、「すみやかな核兵器の廃絶のために」署名と原爆症認定制度の抜本的改正を求める緊急100万人署名、被爆者年末お見舞い募金をよびかける「6・9」行動を行いました。

東京原水協の石村和弘事務局長や日本平和委員会の佐藤光雄代表理事、日本原水協の高草木博事務局長、上野の森に広島・長崎の火を永遠に灯す会の金子満広さん、宗教者九条の和の平田大海氏などが、「被爆国として核兵器廃絶の先頭に立て」と訴えました。

また、原爆症認定訴訟の原告の証言を紹介しながら「62年の苦しみを背負ってきた被爆者を、もうこれ以上苦しめないよう、みなさんの暖かいご支援を」と呼びかけました。



長崎から修学旅行に来た高校生が署名



祖父母が戦争で日本に渡ってきたという在日コリアンの学生は、「アートの中で在日コリアンのことを発信しているが、同じ民族として占領支配と被爆という二重の苦しみを受けたことを忘れてはいけない」と話していました。

イギリス、フランス、ドイツ、カナダなど、たくさんの外国人観光客も署名に応じました。

長崎から修学旅行で来た高校生たちは、「祖父から原爆の話聞いた。毎年8月9日には登校日になり平和学習をしている」と話しながら署名に応じ、「家族や友達の名前を書いて送ります」と署名を持ち帰りました。行動には17人が参加し、「すみやか」署名が95筆、原爆症認定の抜本改善を求める署名が46筆と募金が寄せられました。